

地区名：和泉地区

実施主体：和泉自治会

1 基本データ

○地区人口 469 人 (H31.4.1 現在)

○世帯数 223 世帯

○行政区数 11 行政区

○面積 約 332 平方キロメートル

○地区の沿革

和泉地区（旧和泉村）は、福井県の東端に位置し、面積 332 平方キロメートルの約 9 割を山林が占めている。地域の中央を岐阜県境に源を発する九頭竜川が東西に貫流しており、また九頭竜川をせきとめた九頭竜ダムを始め、大小複数の人造湖を形成している。



春の九頭竜ダム

昭和 31 年 9 月に下穴馬村と上穴馬村が合併して和泉村となり、さらに昭和 34 年 10 月に石徹白村の一部を編入した。そして平成の合併により平成 17 年 11 月 7 日に大野市と合併し現在に至っている。

和泉地区は、昭和 43 年の九頭竜ダム完成や昭和 62 年の日本亜鉛鉱業中竜鉱山の採掘中止などが影響し人口が激減した。この人口の絶対数の少なさ、豪雪地帯・山村地域という地理的条件、工業用地条件の欠如による魅力ある職場の少なさ、都市的生活環境整備の立ち遅れ等によ

る若者の不定着により過疎化が進んできた。

このような中、旧和泉村では地域の特性を生かしたむらづくりの理念のもと「観光立村」を掲げ、昭和 40 年代後半より多くの観光施設の整備を行ってきた。

今年で第 40 回となった「九頭竜紅葉まつり」は、10 月に九頭竜国民休養地を会場に行われ、県内でも有数のイベントとして定着し、今年度も 2 日間で 5 万 4 千人の来場者で賑わった。

交通網も岐阜県側で国道 158 号線に繋がる東海北陸自動車道が整備され、中京圏からの距離も短縮され「福井県の東の玄関口」と位置付けられるようになった。

2 現状と課題

和泉地区は、大野市街地から約 30 km の距離があり、行政サービス低下への懸念や若者の流出による高齢化が進み、地域力・マンパワー不足による地域の衰退、経済情勢の悪化による観光客の減など、当地区の将来への不安が増大している。

また、合併前は小さな自治体であり、きめ細やかな行政サービスを受けていた。このような状況もあり、住民が自ら行動を起こし自らの手で事業を行うという意識が薄く、行政に強く依存している状況であった。合併を機に、少しずつではあるが依存体質から脱却しつつある。

3 事業内容

令和元年度は、2 つの事業を実施した。

① 和泉花木の里事業

① 越前おおの・九頭竜花桃回廊プロジェクト
(花桃の育成管理)

主体：越前おおの・九頭竜花桃回廊実行委員会
平成 21 年 11 月、和泉自治会の賛同を得て、

民間企業と地元住民による自主事業団体「越前おおの・九頭竜花桃回廊実行委員会」が、この地域に花桃の植樹・育成事業を図ることにより、観光拠点としての地域づくりに寄与することを目的に発足した。

平成22年から24年の3ケ年で1,500本の植樹を行い、以降、平成30年までは折れた木等を補植し、計1,600本の植樹した木を管理している。自治会も実行委員会の目的に賛同し共通認識をもち、実施主体である実行委員会の事業推進に協力している。



「九頭竜保養の里」の花桃

② 道端花いっぱい運動

主体：自治会

公民館近くの花壇に花を植え、通勤・通学で行き来する人に癒しを与えるとともに、住民各

自が作業を自主的に行うことにより環境美化の意識を高め、地域を花でいっぱいにするを目的として実施している。



公民館近くの花壇

② 地域づくり計画活動事業

主体：自治会

平成26年4月に「ここに生き続けられるために」の想いをもち「和泉地区地域づくり計画」を作成した。その計画を実践していくために3つにチームが主となり、具体的な活動を実施している。地域資源を活かして、結の精神によって自立した地域を目指していく。



和泉地区地域づくり計画

4 事業の成果

1 和泉花木の里事業

① 越前おおの・九頭竜花桃回廊プロジェクト

平成 22 年から 24 年までの 3 ケ年で植樹イベントを実施し、九頭竜保養の里、道の駅九頭竜、前坂キャンプ場など地区内各所に 1,500 本の花桃を植樹した。4 年目以降の平成 25 年からは、秋には雪対策として苗木の雪囲い、春には苗木の雪囲い撤去、また年間を通じて消毒や除草剤、肥料散布、周辺の草刈作業を実施し、計 1,600 本を管理している。

4 月は雪囲い取外し作業を地区の有志達が作業を行い、10 月 14 日の雪囲い作業及び交流会では 41 名が参加し、それぞれの作業を実施した。

これらの作業を行うにあたっては、実行委員会メンバーのほかにボランティア「花桃ガーディアンズ」を募集している。和泉地区の住民だけでなく、地区外からも参加してもらうことで、多くの人に和泉地区を知ってもらい、さらに地元住民と触れ合う機会を創出している。ボランティアには地区以外の参加者が多く、作業を通して交流が生まれている。

また、将来この地域が花桃でいっぱいになり、多くの人にこの地を訪れてもらえることに思いをはせている。



花桃の育成管理（追肥作業）



花桃の育成管理（雪囲い作業）

③ 道端花いっぱい運動

公民館近くの花壇に花を植え、草むしり等を住民各自が自主的に行うなど、環境美化に関する意識が高まった。また、通勤・通学で行き来する人に癒しを与えている。



「道端花いっぱい運動」の花壇

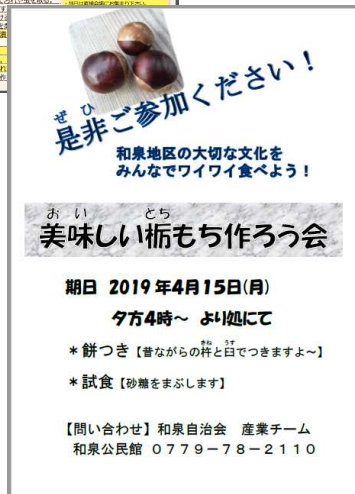


「道端花いっぱい運動」の花壇



2 地域づくり計画活動事業

(1) チーム活動「産業チーム」は、昨年の平成31年度に実施した「栃の実灰汁抜き教室」に続き、「栃もち作ろう」を企画し、特産農林産物の加工技術や食文化を伝承するための試食会を実施した。子供や大人を含め20名の参加があった。



「栃もち作ろう会」の様子

「生活チーム」は、子どもから高齢者までが集い語り合う地区住民の交流拠点「より処」を開設し、備品等を整備した。「より処」は毎週水曜日に開き、多くの住民が気軽に集まり、お茶を飲みながらおしゃべりしたり、各自が持ち寄った趣味で楽しんでいる。

気軽に来ることができない遠距離の集落の住

民を対象に、送迎つきで「より処体験」を実施し、近くまで来た時にいつでも寄れるように雰囲気を知ってもらった。

また、和泉診療所と地区社会福祉協議会との共同で「ちょっと寄ってこサロン」を企画した。日頃、家に閉じこもりがちな地区の高齢者を対象に健康測定や人生会議について、和泉診療所より説明を受けた。

「より処」とは？

- 誰でも気軽に立ち寄り、居合わせた人とお喋りなどして楽しめる、「交流の拠点」です
- 運営は、すべてボランティアの手により成り立っています。十分なサービスは提供できませんが、気楽に時間をお過ごしください
- JAさんのご厚意で、施設をお借りしています
- 飲みものを一杯100円にて提供しております。消耗品費や維持費などを捻出するため、「利用料」として注文いただくと助かります
- 営業日を増やしていくためにも、運営スタッフさんの力が必要です。ご協力いただける方は是非お声がけください
- ご意見・ご要望・ご協力をください。みんなで一緒に、より良い場所をつくっていきましょう！



「より処」日頃の様子

このように、いつでも誰でもが集まる交流の拠点に集うことにより、お互いのつながりを深め、連携感が強まり、地域力が向上されていくものと感じられた。

ちょっと寄ってこサロン

1日 時 令和2年2月12日(水) 午前11時頃から午後1時30分頃まで
 朝日「より処」寄 → 山崎先生の「イイ話」 → 昼食
 11:00頃 (健康ブラスディ) 12:00
 →ファミリーマートで買い物 → 解散(送迎有)
 13:00頃 13:30頃

【付きの送迎バスの運行予定】
 (木末方面) 龍野バス停前 → 長皿バス停前 → 川合遺構 → 「より処」寄
 10:30 10:35 10:45 10:50
 (大納・下山方面) 上大納バス停前 → 下大納バス停前 → 下山バス停 → 「より処」寄
 10:30 10:35 10:45 10:55

2. 場 所 朝日(より処・ファミリーマート)
 3. 参加費 600円(より処食事代・飲み物代) 差別費。保険に加入します。
 2月18日(金)までに和泉診療所へ必ず申し込みください。
 4. 申込方法 電話での申し込み可。TEL 78-2110
 (電話での申し込み可。TEL 78-2110)



「ちょっと寄ってこサロン」の様子

昨年より進めてきた、地区内へのコンビニの誘致については、8月13日にファミリーマートがオープンし、今までの買い物困難者に対する移動販売車の販売を依頼してきた業者に対しては、引き続き、支援していただくよう依頼する。

「ふるさと先進地視察研修」では、岐阜県山県市「舟伏の里・北山農家レストラン」の廃校施設を活用した農家レストランの運営や大野市とのゆかりの深い、越前美濃街道広域観光の交流市である、美濃市の美濃和紙の利活用と観光について、視察研修を行った。

ふるさとづくり先進地視察研修



- 1 期 日 令和元年7月5日(金) 道の駅「丸根電」
(午前8時20分集合)
- 2 視察先 岐阜県山県市「舟伏の里」・
「北山農家レストラン」
岐阜県美濃市「うだつの上がる町並み」
- 3 参加費 2,500円(昼食代、乗車料含む)
- 4 申込方法 令和元年6月25日(火)までに、
参加費を払って、和泉公民館までお申し込みください。
(☎: 789-2110)
- 5 定 員 30名程度
- 6 日 程
道の駅「丸根電」発 ← 岐阜県山県市「舟伏の里」(朝霧町駅)
(09:30~11:00)
⇒ 「北山農家レストラン」(昼食)
(11:00~12:30)
⇒ 岐阜県美濃市「うだつの上がる町並み」散策
(12:30~15:30)
⇒ 道の駅「丸根電」着
(17:15着)



「ふるさとづくり先進地視察研修」の様子

「人・伝統チーム」は、地区の人口減少により和泉地区が誇る伝統行事などが途絶えないよう、和泉の地域資源(自然・名所等)とあわせて次世代に継承していくため、それらを記録し情報発信をしていくホームページやライブラリーを整備した。この記録を広く住民に公表することで、地区への帰属意識を高め、地区外に発信していくことで、和泉地区を広く知ってもらえるものと思われる。また、平成29年3月に「おおの遺産」に指定された「上大納左義長」の上大納区の「左義長飾りづくり教室」の開催や飾りつけの支援を行った。



「ライブラリーづくり」の様子

令和2年版

上大納左義長に参加しよう♪

神事に参加して今年一年をよい年にしましょう ☆

毎年2月14日に上大納地区では、伝統行事である左義長が行われています。平成29年3月に大野市が指定する「おおの遺産」に登録されました。今年も広く和泉地区の方々にお声がけをし、ボランティアとして参加していただき和泉に残る伝統文化を体験しよう。

2月9日 午前中（8時頃～） 芯木（ナラの木）を取りに行く。

2月11日 午前中（8時頃～） 左義長づくり

2月14日 午後4時～ 神事、火入れ

※ 場所 大野市上大納 23-1 長崎伸次宅 横 長崎絹倉庫

3日際とも見学は自由です。ボランティアとして参加していただける方は、費目まで申し込みをお願いたします。

右のQRコードから昭和62年に和泉村時代に作られた「上大納の左義長」という冊子をPDF形式で見ることができます。
 PCの方は <https://1drv.ms/b/s!At4jk5UwqjShW4dnQz7PyaYta>

皆様のご参加、お待ちしております。

お問い合わせ、お申し込み 和泉公民館内 和泉自治会 電話 78-2110
 上大納区、和泉自治会 人伝チーム



上大納 左義長かざりの様子

5 今後の展望



「和泉地区地域づくり計画」にそった事業・活動により、住民が自主的に地域づくりに携わっていく転機となり、その結果、地域にリーダーを育て、人と人の繋がりや集い、結束力を高め、地域力・市民力が向上していくものと確信している。

「ここに住み続けられるために」を基本的な考え・共通の思いとして、自ら考え、行動する自立した地域づくりを推進していきたい。

上大納の左義長

毎年2月14日に行われる上大納の左義長は、村人が文字や字仕事を上達するようという願いから「書初め」や「つつみ」をもちより火焚りにその願いを託すとともに、その行事に参加することによって無病息災を願ったり、家の無事平安を願ったりする年の初めの行事である。

いゆゆなど懐きと関係に、この日に正月飾りや古い札なども一緒に火にくべ、左義長の煙にあたりこの火で新しい年を食べると無病息災にされる。火焚きや火焚きをするこの一年火災を附けるといったようないわれがあるという。

- 由来について
 「天の岩戸」の神話にちなんだと、村人を理めた大木の字を焼き置いたとか、経文の文字を焼いたといわれ「篝焼」を意味するなど諸説があります。
- 構築左義長

 芯にはナラの木を使いその芯木にワラを巻き付けしめ縄で七回半巻く。
 そこに杉の木の枝を差し込みさらに上から次のしめ縄を七回半巻き付ける。
 左義長の高さにもよるが50m以上も必要になるしめ縄も、ワラから巻く。
 先端に和紙の鳥（雛）へ付けてやどり木（糸や）とザカ半の枝を取り付け、完成すると太さ1時で高さは10mにも達する。
- 「つつみ」「書初め」など
 木の葉を採ってきて各家で作る「つつみ」や「書初め」をつくる。
 丸紙にゴカイを巻く。
 ※「つつみ」について

 色紙、もよう紙、（昔は7馬紙を使って糸で編み）合わせて作る飾り物。下にさらに「のめ」という飾り物をつくる。女子が「はら仕事」が上達するようこの願いから、作るものである。

